

意見交換会実施報告書

令和5年12月11日

赤穂市議会議長 様

議会運営委員会委員長 前田 尚志

議会運営委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和5年11月15日(水) 19時00分～20時30分
開催場所	赤穂市役所6階 大会議室
意見交換会テーマ	①議会・議員のあり方について ②議員定数について
出席委員	前田 尚志(代表者・司会者) 釣 昭彦 山田 昌弘 家入 時治 南條 千鶴子 土遠 孝昌(議長) 荒木 友貴 西川 浩司(副議長)
相手方団体名 及び出席者数	赤穂市自治会連合会 赤穂市PTA連合会 赤穂商工会議所 赤穂市社会福祉協議会 赤穂市消費者協会 赤穂市民生委員児童委員協議会 赤穂農業後継者の会 7名
目的	議会運営委員会では、議会活性化に向けた取組みとして、令和4年度に議員定数を含めた議会・議員のあり方について調査・研究を実施し、令和5年度については、議員アンケートを実施した上で、各種団体の方々から貴重な意見等を頂戴し、今後の議員定数等にかかる議論の参考とするため意見交換会を実施する。 なお、各団体及び委員からの意見等については、団体等の取りまとめた意見ではなく、出席者及び委員個人としての発言である。
出席者の主な 意見等	①議会・議員のあり方について 【出席者】 ・議員の総人件費が多い要因は、平成23年に議員年金制度廃止となっているが、これまで受給資格のある議員であった方への年金支給のため赤穂市が年間2,000何百万円を市議会議員共済会に払い続けている。現議員は年金も退職金もないが、

10数年前に辞められた議員は年金が遺族年金になるまで受給しており、それがなければあと2、3人議員を出してもやっていけると思う。

- ・赤穂市の将来を考えたとき、若い世代の方に議員になっていただきたい。その思いでできるだけ報酬を上げていただきたい。人口が減っている中、財政が厳しい中、議員が自ら襟を正していただくことを市民は期待している。

【出席者】

- ・プライバシーや守秘義務などから、議員への相談者も減っており、議員も仕事がしにくくなっているのではないかと感じている。
- ・議員報酬は、少しぐらいは上げてもいいのではないかなと思う。議員が本職か商売が本職か分からない人を見かけるが、報酬のことを言われるのであれば、議員一本でしてほしい。

【出席者】

- ・議員報酬が高いのか安いのか正直分からないが、いろいろな事情を考慮すれば、もう少し高くてもよいと思う。

【出席者】

- ・学校に行けない子供が全国的に増えており、学校に行けない子供たちの受け皿のサポートを強く望むところであり、議員の方々は、学校なり地域なりその状況を見ていただいて市に問い掛けを行い、子供たちが自由に何かができるように取り組んでいただきたい。
- ・議員報酬は自分の給料よりはるかに多いが、今の職を投げ打ってサラリーマンを辞めて、この金額で子育てできるか疑問である。

【出席者】

- ・議員の方々に求めたいのは、当然、行政のチェック機能は大きな役割であるが、市の将来ビジョンをしっかりと議会の中で議論していただきたい。
- ・議員報酬は、赤穂市特別職報酬等審議会（以下、報酬審議会）の方で十分議論されているので尊重したい。

【出席者】

- ・議員報酬は、報酬審議会でも協議され適正に判断されているため尊重したい。
- ・4年に一度の選挙は、時期が来たら市民やまちをあげて盛り上がるが、市民が議員と一緒に地域や赤穂市を盛り上げていくた

めに親密に連携を図っていただきたい。

【出席者】

- ・議員がどのような仕事をされているのか分からない市民が多いため、仕事内容や意見募集などPRしてほしい。

【出席者】

- ・委員から議員報酬の引き上げ率はわずか3%と言われたが、報酬審議会はほぼ上げない意見の方が強かった。
- ・市民や各種団体の方がどういうことを考えているか、一度目線を変えて見ていただきたい。各種団体の補助金や助成金が毎年1割カットされており、決して今の赤穂市が大丈夫と思っている市民はいないと思う。

②議員定数について

【出席者】

- ・先代の自治会連合会長が定数16名を提示しているため、そのようなかたちで削減していただきたい。
- ・いきなり16名にするのが難しいのであれば、17名で段階的に16名、人口が減っていくと15名にするようなやり方もあると思う。議員で考えた結果を次期選挙までに出していただきたい。
- ・自治会連合会の調査では、人口4万人から4万5千人の都市の議員定数の平均は17.4名となっている。

【出席者】

- ・報酬審議会の答申については、議員報酬3%引上げで検討している。その過程で現在の赤穂市の財政状況等の中で、支出を増やす答申は不可能である。
- ・報酬審議会では、職を投げ打ってまで議員になる方が、この報酬で本当に立候補するのか。しかも4年経って選挙になったら、次はないかもしれない。そういう中で議員を目指し、有能な人材が出てくれるのかと真剣に話し合った。
- ・赤穂市の財政状況を考えると、総枠で議会にかかる金額を増やすことは誰一人納得していない。議員の方々一生懸命頑張っているが、身を切る姿勢を見せいただきたい。

【出席者】

- ・資料を見ると2年で1,000人くらい人口が減っており、人口減少時代、住民感情からしても定数を少し減らしていただく方がよい。当協会役員からは、議員の仕事が分からない、人口が

減っているので16名ぐらいに減らすのがよいのではと意見がでていた。

【出席者】

- ・議員報酬37万5千円で、すべてを投げ打ってまで議員になることは、子育て世代として非常にリスクが高く、議員になったとしても次の選挙の確証がない。いろいろなしがらみもあるが、幅広い方々が立候補できるような仕組みがあればよい。

【出席者】

- ・議員定数17名を聞いた限りでは妥当であると感じた。

【出席者】

- ・赤穂市の人口より多いところでも16名で議会運営ができていますが、平均では大体18名のところが多く、特に赤穂市は課題が多いので、16名で大丈夫なのか18名いるのではないかと、議員でしっかり議論していただき、それを市民に説明し理解を求めていくことが重要である。

【出席者】

- ・自治会連合会が要望書を出すということは、各種団体でも一番多くの世帯が加入し、一番力のある組織であることから、自治会連合会の取組等は、市民の意見が反映されているので、議員の方々は、尊重していただきたい。最終的に決定するのは、議員の方々なので、幅広く意見を吸い上げ適正なかたちでまとめてほしい。

【出席者】

- ・ある議員は一般質問をしない、地域や学校の行事に参加しないなど、私から見て議員の職責を果たしていないと思う。先ほど委員から定数18名でよいと発言されたが、それを認めるということであり、議会の活性化や透明化、見える化と言っても何の意味もない。

【出席者】

- ・さきほど委員から将来的に人口が減れば定数を16名にという意見があったが、先の社会情勢は不透明であり、赤穂市の課題も山積していることから、議会ですっかり議論していただき、結論を出していただきたい。

【出席者】

- ・議員アンケートの中で、常任委員会が3つあるから、3の倍数でなかったら駄目というのは、議会側しか理解できない話で、それを議員定数の理由に掲げるのは、市民目線からは理解でき

	<p>ない。</p> <p>③その他</p> <p>【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤穂市議会政治倫理条例（以下、倫理条例）において、2親等以内の親族が経営する企業は、市が行う請負契約等を辞退に努めると規定されており、下請けまで制限する条文がある以上、立候補しにくい原因にもつながっていると思う。立候補しやすいような条文に見直すべきである。 <p>【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 倫理条例において、2親等の方が請負業者になれないため、市の公共事業を諦めている方もいると思う。倫理観を持つことを大切にするのか、狭める制度を作ることが正しいのか、もう少し考えていただきたい。 <p>【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 坂越地区において、バスの便数が少なく、イオンにタクシーを使わないと行けないという高齢者に会う。そう言った声を吸い上げて、反映できるような方が議員になるべきではないかと思う。 <p>【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種団体との意見交換会について、その結果や協議内容を議長に報告し、周知されているが、参加者にも結果を報告していただきたい。 以前の報道等の記事によると、市民アンケートを実施する内容があったが、意見交換会をもって市民の意見とするのか。 <p>【出席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本会議のインターネット中継の一般質問について、議会の見える化の取組みとして、市民の方々が見やすい時間帯として土日や夕方から開会できないか検討すべきである。
委員の主な意見等	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 倫理条例の関係については、平成21年に施行し、それから14年が経過しており、地方自治法の改正もあるため、今後、議会の検討課題であると考えている。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に議員定数・議員報酬について調査し、全国の人口4万人から5万人の都市と比較すると、定数・報酬ともに多くもなく少なくもない状況であった。財政的には定数18名でも

大丈夫だと思っている。

【委員】

- ・女性の立場や子育て世代、共働き、夫婦分担でやっている立場としては、自分自身の活動からすると議員報酬は少ないと思う。
- ・議員定数を18名から16名に減らし、その2名分を議員報酬に充てるのではなく、例えば議員経験がない方がチャレンジできるように議員活動をサポートするための制度に充てられないかと考えている。

【委員】

- ・議員年金について、制度廃止や公費負担していることを知らない市民が多いので、理解していただく必要がある。
- ・身内に建設業を営んでいる者がいるが、倫理条例の関係で市の公共工事に入れず、身内からは議員を辞めてほしいと言われている。また、身内にいろいろなかたちで影響を及ぼし、それを投げ打ってまで議員になられている方もいる。
- ・議員報酬については、報酬審議会で正副議長は据え置き、議員は3%上がることについて問題ないが、最終的には議会で決めることになる。
- ・議員定数については、1名減で、人口4万人を切った時点で、16名にすればよいと思う。

【委員】

- ・報酬審議会での真剣な審議や本日参加の方々の声をしっかり受け止め議論を進めていきたい。

【委員】

- ・議員定数には基準がないため、定数を減らすときいろいろ考えるが、最終的には人口減少しかないと思っている。
- ・議員報酬3%上げたくらいで議員になろうという方は増えるのかという意見もある。
- ・議員の職だけでやってほしいとの意見もあるが、総額37万5千円からいろいろ引かれると手取り25万円くらいとなり、なかなかそうもいかない。
- ・報酬審議会の意見を尊重したいと思っている。
- ・人口減少については本当に対策を考えないといけないし、それに合った議会にしていけないといけない。また市民の方々に理解していただける活動を考えないといけない。

【委員】

- ・当委員会の中で、市民アンケートや各種団体との意見交換会な

	<p>どの実施について意見があったが、結論的には、今回の意見交換会で意見を聞くということに決まった。</p>
--	--